

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2022/01/10 ～2022/02/27)

1. 勉学の状況

1月の最後の週から授業が始まりました。applicationの際に申請した授業は、授業開始後約1週間の間に、自分で登録ボタンを押すことで、登録が完了するようです。私は、計4つの授業を現在履修しています。私が受けている授業は、基本的に授業日が、何曜日の何時からと固定されてはいるものの、週によって授業数が変わることもあり、また、当日に時間変更や日程変更があったり、対面からオンライン変更になったりすることがあり、随時、情報把握が必要だと感じています。introduction to special education という授業では、自分の感心のあったインクルーシブ教育や、障がいのある子の教育課題などの講義を受けています。lisam(千葉大学でいう moodle)に、事前に読むことを推奨する文献が載っているので、目を通してから講義を受けるようにしています。また講義のスライドも後日載せていただけるのでとても助かっています。The swedish model という授業は、私が想像していたよりも政治的内容が多く、内容理解にとっても苦戦しています。また、英語で自分の意見を伝えることの大変さを痛感しています。授業、グループワークの積極的参加がこれからの課題であり、予習、復習など授業以外の準備に力を入れて改善していきたいです。そして、勉強場所に関しては、大学の図書館がとても広くてきれいなので、授業がない時は、そこで勉強することが多いです。



↑大学の図書館

2. 生活の状況

<渡航>

コロナ過での渡航で、乗り継ぎなど渡航前不安要素が多かったので、役にたてるかは分かりませんが、自分の情報を共有しておこうと思います。当日の朝、成田空港で PCR 検査を受け、陰性証明書を取得しました。乗り継ぎのヘルシンキ空港でパスポートコントロールがあり、スウェーデンの在留許可通知書、陰性証明書などの必要書類を提示して通過できました。そのためストックホルムではスーツケースをとるだけで特に手続きはありませんでした。移動中は、空港や電車の free-wifi の利用と、日本から持参したポケット wifi で特に連絡ができなくて困るといったことはありませんでした。

<日常生活>

こちらに来てすぐ生活に必要なものは、IKEA やスーパーマーケットで購入しました。また、自転車を大学の学生団体のフリーマーケットを通して購入しました。基本的に移動は自転車を利用しています。自転車に乗れないほど雪が積もっているということはなく、想像していたよりも寒くなく、過ごしやすいです。ESN という学生団体が企画するイベントに参加したり、その団体が提供して下さる Buddy group の方とスポーツやご飯を食べたり、EAA と呼ばれる団体の活動に参加したりして、日本にいたときよりも一人部屋の中で過ごすという時間が少ないなと感じています。また、食事は外食よりも一緒につくるということの方が多く、手巻き寿司も何度かつくりました。また、寮では、サウナが予約すれば無料で利用でき、時々利用しています。授業の課題で忙しかったり、英語力の壁にあたって葛藤する日もありますが、貴重な経験をさせていただいているという気持ちを忘れずに、今後も一日一日を大切にしていきたいです。



↑アーランダ空港

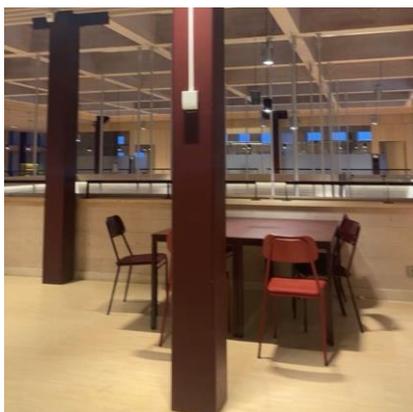


↑手巻き寿司

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2022/02/28～2022/05/01)

1. 勉学の状況

Introduction to special education という授業が終わりました。この授業はほかのヨーロッパの国の留学生が多く受けているので、スウェーデンの教育システムや、特別支援だけでなく、ディスカッションの際などに違う国の仕組みや課題についても知ることができて、得られるものが多いなと感じました。The Swedish Model という授業は、私の事前知識が足りないためでもありますが、内容が難しく、日々格闘しています。ですが、スウェーデンの中立性についてや、移民についてなど、興味関心のある内容ではあるので、最後まで頑張りたいと思います。5月中旬に、Nordic culture という授業で第2回目の countryside へ訪れる遠足のような行事があります。ですが、その日程とスウェーデン語のテストの日程や、The swedish model の最終日がかぶっていたため、テストの日程を変更してもらうなど個別に連絡して調整が必要でした。5月中旬は、このように授業終盤のピークなので忙しくなりそうです。また、私はオンラインで千葉大学の授業も受けています。時差の関係で早朝に受けなければならず、そのあとすぐにスウェーデン語の授業を受けなければいけない日があり、早朝から図書館で受ける日もありましたが、誰もいない図書館で日本の授業を受けるのはどこか新鮮で楽しかったです。



↑図書館の中

2. 生活の状況

寒さが和らぐとともに、日の長さがどんどん長くなって来ました。午後8時とかでも、日本の夕方4、5時の明るさなので、不思議な感覚です。スウェーデンの生活にはすっかり慣れ、友達とご飯を一緒につくって食べたり、カフェに行ったり、学生団体の主催するイベントに参加したりしています。ほかの留学報告書にも記載してありますが、やはり外食は高いため、一緒につくることが多いですが、日本食をつくった時に喜んで貰えたり、ほかの国の料理も食べることができたりするのでうれしいです。また、スウェーデンの行事を体験することも多く、セムラという伝統菓子を食べたり、イースターの伝統料理をつくったり、イースターイベントに参加したりして、日本ではなかなかできない貴重な経験をさせてもらっています。イースターの期間は、あらゆるところで、イースターの装飾がみられ、春になり咲いているお花も増えたためか、町全体がカラフルだった印象があります。また、授業でストックホルムに行く機会があり、そこで桜を見ることができました。桜を見たり、日本食をつくったり、ジブリ鑑賞会をしたりすると、日本が恋しくなりますが、スウェーデンの生活も残り2か月と考えると、今のスウェーデンの生活を大切にしていきたいです。



↑イースターの伝統料理

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2022/05/02 ～2022/06/26)

1. 勉学の状況

5月中旬、下旬にかけて授業が忙しかったです。Nordic culture の授業では、第2回目の遠足のようなイベントがありました。人生で初めてカヤック体験をするなど、貴重な経験だったとともに、スウェーデンの自然や、サマーハウスについて知ることができ、自然に親しむ、自然を大切にするとところがとても魅力的だと感じました。また、その授業の最終課題は、文化とは何か、教育における課外活動の目的などに関するテーマで、6ページという膨大な量で苦戦しました。また、The Swedish model の授業では、最終授業（試験）は、自分で書いたものを講評してもらおうという形でした。この授業は、政治的内容など少し難しかったですが、スウェーデンの育児休業、男女平等、中立性などについて学ぶ事ができ、最後まであきらめずに履修して良かったなと思います。スウェーデン語の筆記試験は、上着やリュックなどは、試験の机の下ではなく教室の端に置かないといけないのに対し、食べ物は、机において良いらしく、多くの学生がバナナを机の上に置いているのが、私にとって珍しい光景で印象に残っています。スウェーデン語はすごく上達したというわけではありませんが、留学生の多くがとっているため、その授業で新しい友達をつくることができたり、一緒に新しい言語を学ぼう！というあたたかく楽しい雰囲気の授業だったので、言語の上達目的ではなくても履修して良かったなと思います。



←カヤックの際にとった写真

2. 生活の状況

半袖を着る機会が増えてきました。日中、公園で日向ぼっこしている光景が個人的に好きでした。5月末は私の誕生日で、友達がサプライズでケーキをつくってくれて、とてもうれしかったです。6月になるとだんだんと帰国する人が増えて、留学が終わるのだなと実感していました。最後に集まってご飯会をしたり、FIKAをしたり、最後のパーティに行ったりして過ごしていました。そして、授業が終わり自由な時間も増えたため、一時期、近くにある森の中を朝散歩することにはまっていました。また、帰国準備も進めて、日本の入国制限の確認や、PCR検査の予約などをしました。世界情勢の影響もあり、予約していた便が次の日に変更になったり、陰性証明の日本フォーマットが取得できたのが前日の真夜中であったりといったこともありました。無事帰国することができて良かったです。ただ、行きの飛行機は席がかなり空いていたのに対し、帰りは満席だったのが、少し残念でした。半年間を振り返ると、コロナ禍において、特に体調を崩すことなく過ごせたことは本当に幸せなことだったと思います。スウェーデンという国が好きになる半年間でした。



←寮の周りで発見したうさぎ